

もの売り遊び



まゆ玉売り



ざる売り



あめ売り



とんがらし売り



足踊り

おもな内容

- オープニング
山車(だし)遊び
- もの売り遊び
とんがらし売り
まゆ玉売り
あめ売り
ざる売り
- お芝居
八王子にちなんだお話
「まゆ玉と龍神」
「でいだらぼっち」
(この中から組み合わせで上演します)



まゆ玉と龍神
原案/金田拓

♪ 雨たんもれ龍神の
おどだけ山の黒雲
北へまわれれば降るとき

兄妹が二人きりで暮らす村では、雨が降らずに困っていた。ある日、クモのいと助から「子どもの元気な声があれば雨が降る」と教えられ、草太とまゆは旅に出かけます。

呼ばわり山のおりんぼうと、笛吹き山のおりんぼうに会って、二人は龍神淵に辿り着き、雨乞いの歌を歌います。

**未来をつくるのは子ども、
子どもの中に未来がある**

劇団風の子が八王子市美山町に拠点を構えて三十年がたちました。日本全国の子どもたちに芝居を届ける旅公演の中で、各地方のあそびや文化、芸能に触れる機会が数多くありました。脈々と流れる人々の思いの深さ、そこから表現される伝統文化、芸能の数々。それは、その土地に根付く人々の思いをこめ、た豊かさを感じさせてくれます。

そして私たちも、三〇八王子周辺に伝わる伝承あそびやわらべ唄、民話、文化、芸能を今一度見つめ直し、掘り下げ、長い間受け継がれてきた素敵な素材をいかしながら、子どもたちと共に新たな劇空間を創りあげていきたいと思うようになりました。

本来子どもがもっている「あそび心」「イメージ力」を信じ、伝承文化を見直すと同時に、現在と未来を生きる我々と子どもたちの手で、この作品を通して、新たな「あそび」や「文化」を再創造していけたらと思っています。

作・構成演出 中島 研

わらべ唄と郷土

私たちは、それぞれ生まれ育った土地の空気を吸い、風を、味を、音を、リズム等を五感(官)でいっぱい吸収して成長していきます。

遠い昔、近い昔、たしかに聞いたことがある、「イナイイナイバー」「オツム(アテン)」

まだ、しゃべれない、うたえない時期に育った環境からの「耳こぼし」は、感性を磨き、心を豊かにしていきます。ひざのうでゆったりと抱かれた安心感、ぬくもり、全身で覚えた快感は、幼い心の財産です。どこかで、だれかがうたったわらべ唄を、おもしろかった、楽しかった、うれしかった感動と共に、だれかが、どこかへ運んでいきました。自然や文化的環境のちがいはあってもわらべ唄は、その時代を反映してうたわれています。

私たちの生活環境がどんなに変わっても、無視されても、わらべ唄は、どんな隙間からでも、子どもたちの心にのびこんで、生命力をがちとつてしまいます。子どもにとつては常に新しく、いつも自分たちの真実を表しているのが本当のわらべ唄なのです。

あそび・わらべ唄の研究者
古賀由美子

でいだらぼっち
原案/金田拓

♪ でつけえ山どこだ
きれいな山どこだ
でつけえ山どこだ
美しい山どこだ



山が大好きな大男でいだらぼっちは、渡り鳥から「北の方にでつかけてきれいな山がある」と聞き、たまらず探しに出かけました。

きれいな山(富士山)をみつけたでいだらぼっちは、自分のそばにおきたいと、おんぶして連れて帰ろうとしましたが…

